

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04574

研究課題名（和文）養護教諭の専門性向上を目指した養護実習スタンダードモデルの開発

研究課題名（英文）Development a standard model of training for student Yogo teachers to improve their professionalism.

研究代表者

齋藤 千景（SAITO, Chikage）

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：50618163

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は養護教諭の専門性の向上を目指した養護実習のスタンダードモデルを開発することである。そのために以下の3点を行った。実習指導をする指導教諭を対象にインタビュー調査を行い、指導上の困難点を抽出した。実習指導者をサポートするためのガイドの開発と評価を実施した。実習の事前事後指導において、さらに指導養護教諭の研修において使用できるケースメソッド・ケース集を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新任の養護教諭の質を担保するためには、養護実習の標準的基準を提示し、養成機関と実習校の連携を促進することが必要である。本研究では指導養護教諭の指導上の困難点や不安点を明らかにした上で、養成機関と指導養護教諭の連携のツールとしての「指導養護教諭のためのサポートガイド」を作成した。評価の結果、サポートガイドは指導養護教諭が養護実習を充実させるための一助となることが示された。

研究成果の概要（英文）：This study developed a standard model of training for student Yogo teachers to improve their professionalism. The following three points were implemented.(1)We interviewed Yogo teachers who teach students in practice to identify difficulties associated with teaching.(2)We developed a guide to support Yogo teachers who teach students in practice.(3)We compiled casebooks that can be used to train students before practical training.

研究分野：養護実践学

キーワード：養護実習 スタンダードモデル 指導者 サポートガイド

1. 研究開始当初の背景

養護実習は教員免許取得における教育実習に相当する実習で、教員免許法により養護教諭の免許取得に義務付けられている実習である。近年、看護系・教育系・学際系など養護教諭養成大学は増加し、養成カリキュラムも多様化していることから、養護実習の到達度は大学によって差が生じている。この現状は新規採用された養護教諭の質の差にもつながる。

一方、子どもをとりまく環境は複雑化、多様化しており、養護教諭に求められる専門性にも変化が生じている。このことから、従来の養護実習を踏襲するだけでは、新任の養護教諭の専門性の担保に課題が生じる現状にある。

養成大学を対象とした調査¹⁾では、養護実習の目的や評価項目はどの養成大学においても網羅され、目的と評価の一貫性も保たれていた。しかしながら養護実習で学ばせたい内容や形態は養成大学によってばらつきがみられた。また、学生を対象とした調査²⁾では、指導養護教諭との良好な関係と実習の満足度、実習目標の達成度には相関がみられ、学生の目標達成のためには、養成大学と実習校が連携して学生を指導する必要が明らかとなった。一方、指導養護教諭を対象とした調査³⁾では指導上の困難さや負担感を感じ、指導者としてのスキルアップを望みながらも学ぶ手立てがないことが示されている。このような現状から、養護教諭の質を担保するために養護実習の標準的基準を提示し、養成側、実習校側の連携を促進する実習スタンダードモデルを開発することが求められている。

(文献)

- 1) 齋藤千景,竹鼻ゆかり他:養護教諭養成大学における養護実習の現状と課題.学校保健研究 58.75-83.2016
- 2) 齋藤千景,竹鼻ゆかり他:養護実習における学生の自己評価.日本健康相談活動学会第12回学術集会抄録集.68.2016
- 3) 竹鼻ゆかり,朝倉隆司他:養護実習における学生と養護教諭の学びの検討.東京学芸大学紀要.学術スポーツ科学系.62.55-61,2010

2. 研究の目的

本研究の目的は、養護教諭の質を担保するために実習の標準的基準を提示し、養成側、実習校側の連携を促進する実習スタンダードモデルを開発することである。本研究では、指導養護教諭と養成機関の連携に重点を置き、以下の3点を実施した。

- (1)実習指導をする指導養護教諭を対象にインタビュー調査を行い、指導上の不安や困難点を抽出する。
- (2)実習指導を行う養護教諭をサポートするためのガイドの開発と評価をする。
- (3)学生に行う実習の事前事後指導、及び指導養護教諭の研修で使用できるケース・ブックを作成する。

3. 研究の方法

(1)指導養護教諭を対象とした調査

平成30年7月～8月に、指導養護教諭6名を対象に半構造化面接によるインタビュー調査を行った。調査の内容は、実習指導を終えての感想として、主に実習指導について不安だったこと、悩んだこと、困ったことならびに指導経験を経て学んだことであった。分析は得られたデータより作成した逐語録から、養護教諭の不安や悩み、困難を示す文節を抽出し、

コード化したのちサブカテゴリ、カテゴリ、コアカテゴリと抽象化して分類した。

(2)指導養護教諭のためのサポートガイドの作成

調査1)の結果及び先行研究を基に、指導養護教諭をサポートするためのガイドを作成した。サポートガイドの作成手順は以下であった。実習の指導経験がある養護教諭を対象に、指導をするにあたり知りたかった情報及び不安であった内容についてのインタビュー調査を実施する。その結果と文献を参考にして試案を作成する。試案を元に共同作成者で検討と修正を重ねてサポートガイドを作成する。サポートガイドのデザインを決める。現役養護教諭8名にサポートガイドに対する意見をもらい修正を重ねる。

さらに、作成後には養護教諭100名を対象にアンケートによるサポートガイドの評価を実施した。

(3)ケース・ブックの作成

調査1)の結果及び先行研究を基に、養護実習の事前事後指導及び指導養護教諭の研修で使用するためのケース・ブックを作成する。学生を対象に作成したケース・ブックを使用した授業を行い、学生の学びを評価する。

4. 研究成果

指導養護教諭を対象とした調査では、いずれの養護教諭も実習指導という経験を通してさまざまな思いを抱きながら指導をしていた。具体的には指導養護教諭としての不安や困難は【実習内容や実習指導方法】、【実習校としての指導体制】、【養護教諭自身の指導力】、【実習生に対する指導】の4つのコアカテゴリーに分類できた。【実習内容や実習指導方法】は実習内容や指導方法に関する不安や困難を示し、<実習指導に関する情報不足>、<実習内容の理解不足による実習計画立案の難しさ>、<実習として経験すべきことの判断の難しさ>、<実習評価の観点や基準に対する理解不足>のカテゴリーで構成された。【実習校としての指導体制】は学校での指導体制の難しさを示し<養護実習を学校全体で進めることの大変さ>、<他の教員との連携・協力の難しさ>のカテゴリーで構成された。【養護教諭自身の指導力】は養護教諭自身の指導力に対する不安を示し<自分の実習経験だけで指導することへの不安>、<実習指導の経験がないこと>のカテゴリーで構成された。【実習生に対する指導】は実習生に対する指導に関する悩みや困難さを示し<実習生の学びにつなげるための指導方法の模索>、<実習生の特性を考慮した対応の難しさ>のカテゴリーで構成された。

この結果を受けて、指導養護教諭をサポートするためのガイドを作成した。サポートガイドのコンセプトは 実習校と養成機関とが実習において共有すべき内容を簡潔にまとめる 計画から実習中まで、指導養護教諭が手元において内容を確認が出来るよう実用性を重視する 教職員が養護実習の概要を理解しやすいように、内容を最低限に抑えて簡略化する、とした。構成は実習の目的・目標、内容、計画例、評価とした。サポートガイドの評価を行うために、養護教諭100名を対象にアンケート調査を実施した。サポートガイドの肯定的な評価として【適度な分量による読みやすさ】、【実習目標に関連した具体的な実習内容】、【視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ】、【養護教諭以外の教員への実習の理解促進】、【養護教諭自身の学びの実感】の5つのカテゴリーが得られ、評価は概ね良好であったことから、サポートガイドは指導養護教諭の実習指導をサポートするために有効であることが示唆された。しかしながら、養護教諭から「計画例を多く提示してほしい」、「評価の具体的な基準を明記してほしい」との意見が挙げられ、課題も残された。

さらに、「ケースメソッド教育に活かす学校用ケース・ブックの作成」を2冊作成した。養

養護教諭は様々に変化、複雑化する子供の課題に対応する力が求められる。養護実習においては学生に実践力を身に付けさせることが目標となる。しかし、実習前に様々な事例を体験させることはできない。そこで、実習の事前事後指導において、さらに指導養護教諭の研修において使用できる、現実に即したケースを学習するためのケース・ブックを作成した。ケースは貧困、発達障害、いじめ、LGBT等の現代的な健康課題として注目される内容とし、意思決定がせまられるような事例とした。さらに教育目標や展開方法等のティーチングノートもつけ、養成機関が実習の事前事後指導で使用しやすいようにした。

また、研究期間中に新型コロナウイルス感染症が流行した。新型コロナウイルス感染症の流行は児童生徒の健康を守るために、感染予防策を徹底することが求められ、養護教諭の職務内容、さらには養護実習にも大きな影響をもたらした。養護実習に参加する学生にとっても、受け入れる養護教諭にとっても、初めての経験であり、養護実習も混乱することが予測された。そこで、ケース・ブックに新型コロナ感染症を題材にしたケースを2例掲載した。ケース作成後に、新型コロナ感染症のケースを授業で実施し、学生の学びを評価した。結果学生は感染症対応について時系列かつ多角的な視点で学んでいることが示され、養護実習の事前事後学習として有効であることが示された。

今後はさらに、養成機関と指導養護教諭の連携を推進するための体制作りに向けて研究を継続していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 齋藤千景、竹鼻ゆかり、三森寧子、鎌塚優子、鹿野裕美	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 実習指導を行う養護教諭のための「養護実習サポートガイド」の作成と評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教育学部	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三森寧子、齋藤千景、竹鼻ゆかり、鎌塚優子、鹿野裕美	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 実習指導を初めて行う養護教諭の不安と困難	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤千景、竹鼻ゆかり、朝倉隆司ほか	4. 巻 60(4)
2. 論文標題 養護実習における学生の目標達成度，満足度に関連する要因	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校保健研究	6. 最初と最後の頁 233-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤千景
2. 発表標題 実習指導を行う養護教諭のためのサポートガイドの作成
3. 学会等名 日本健康相談活動学会（第15回）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三森寧子
2. 発表標題 初めて実習指導を行う養護教諭の学びと困難
3. 学会等名 日本健康相談活動学会（第15回）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤千景
2. 発表標題 実習の指導経験を通じた指導養護教諭の学び
3. 学会等名 日本健康相談活動学会(第4回)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>教材開発等（計3件） 齋藤千景,竹鼻ゆかり,鎌塚優子他：ケースメソッド教育に活かす学校用ケース・ブック PART2. 十文字学園女子大学人間生活学部人間発達心理学科.2018.3 齋藤千景,竹鼻ゆかり,鎌塚優子他：養護実習受け入れのためのサポートガイド.2019.3 竹鼻ゆかり,齋藤千景,鎌塚優子他：ケースメソッド教育に活かす学校用ケース・ブック PART3.東京学芸大学講座芸術・スポーツ科学系養護教育講座.2021.3</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹鼻 ゆかり (TAKEHANA Yukari) (30296545)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鹿野 裕美 (SIKANO Hiromi) (40510631)	宮城大学・看護学群(部)・准教授 (21301)	
研究分担者	三森 寧子 (MITUMORI Yasuko) (70633395)	千葉大学・教育学部・准教授 (12501)	
研究分担者	鎌塚 優子 (KAMAZUKA Yuko) (80616540)	静岡大学・教育学部・教授 (13801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関